

健康新聞

新しい健康法を伝える新聞です

新健康協会は「心身をいやし、新たな神智によって視野を広げ、心の拠りどころになる救いの場」をめざして活動しています。新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間のもつ治癒力や適応力をお伝えしています。心と体をいやす「新しい健康法」を通して自然界の摂理を学ぶことで、人は生ある間に「どのように生き、何をすべきなのか」を知ることができます。

肉体的、精神的なコトでお悩みの方も是非一読されてみてください。

浄霊体験記

長く続いたうつ病 よくなる

薬を飲まなくても生活できるようになりました！
心肺停止 13分 脳障害を免れた奇跡
たくさんの奇跡で、私の人生は変わりました！

発行所 新健康協会 無料

新健康協会総本部 福岡市東区唐原6丁目7番1号
TEL:092-661-1531 (代) HP:https://shinkenko.jp

2021 1月号 月刊 毎月1日発行 vol.770



左の御論文は、明主様（浄霊法の創始者）が昭和二十六年（一九五二）に発表されたものであります。御一読頂きまして、世界平和と心身に健全な人間作りを目指す私達の運動を、御理解頂ければ幸いです。

霊主体従

前項に説いた如き、無機質界と人間の病気との関係を書いてみるが、即ち無機質界とは我我のいう霊界である。そうして人間は、体と霊との密合一致によって成り立っているものであつて、いうまでもなく体とは眼に見ゆる物質で誰にも分かるが、霊は眼には見えないが、立派に存在している一種のエーテルの如きものであつて、人体が空気の存在である如く、人霊は勿論霊界の存在である。霊界とはさきにも書いた如く、空気よりも稀薄な透明体であつて、無と同様であるが、実はこの世界こそ無どころではなく、絶対無限の力の発生源であつて、その本質は太陽の精と、月の精と、土の精との融合による、想像もつかない程の靈妙幽幻な世界である。これを仮に宇宙力といつておこう。この宇宙力によって万物は生成化育されるが、それと共に汚穢が溜るので、それに対する浄化が行なわれる。丁度人体に垢が溜り、入浴が必要となるようなものである。即ち地上霊界に汚穢が溜るや、それが一定の局所に集中され、低気圧という浄化作用が発生して清掃される。雷火も人的火災もそれである。いうまでもなく、人間もそ

れと同様、汚穢が溜れば、霊を主として浄化作用が発生する。これらを詳しく書いてみよう。右の如く、人霊に溜つた汚穢即ち曇りであるが、これは透明体である人霊に、不透明体の部分が発生する。そうしてこの原因には二種類ある。一は霊自体に発生する曇りと、二は体から移写される曇りである。まず前者から説いてみるが、人霊の内奥は求心的三重になつていて、これを中心から逆に遠心的に説いてみれば、中心はいわゆる魂である。魂とは人間がこの世に生まれる場合、最初男性を通じて女性の腹へ宿るのである。ところが魂を包んでいるものが心であり、心を包んでいるものが霊であるから、魂の如何はそのまま心を通して霊に反映すると共に、霊の如何は心を通じて魂に反映する。このように魂と心と霊とは相互関係で三位一体である。勿論如何なる人間といえども、生きている間善も悪が多ければ、差引多だけが罪となり、それが魂へ反映して曇りとなる。為に心が曇り、霊が曇るといふ順序である。すると浄化作用発生によって曇りの排除が行われる。その過程として一旦曇りの容積は縮小され、濃度化し、体内のいずれかの局所に集結する。面白い事には、罪によつて固結場所が違ふ。例えば目の罪は目に、頭の罪は頭に、胸の罪は胸にというように相応するのである。

次に後者を解いてみるが、これは前者と反対で、体から霊に映るので、その場合最初血液に濁りが生じ、その通り霊が曇る。元来人体は霊の物質化したものが血液であり、その反対に血液の霊化が霊であるから、つまり霊体は一致している。従つて、濃度化した曇りが体に映ると濁血となり、それが一層濃度化したものが固結であり、この固結が溶解され液体となつて、身体各所から排除されようとする、その苦痛が病気である。そうして、体からの移写とは勿論濁血のそれである。然らば何故濁血が出来るかという、この原因こそ実に意外である。というのは、医療の主座を占めていた薬剤そのものである。即ち薬とは全部毒であるから、薬を体内に入れるだけは濁血が作られるという訳で、何よりも事実がよく証明している。それは病気が医療を受けながら、長引いたり、悪化したり、余病が起るこころというのはその為で、別に不思議はないのである。そうして、体にある濁血が霊へ映つて曇りとなり、これが病原となる。としたら、実は病気を治す方法自体が、病気を治す方法という事になる。ところが万有の法則は霊が主で、体が従であるから、病気が霊の曇りを解消しない限り、全治しないのは当然である。ところが我が医療はこの原理の応用であるから、霊を浄める事によつて、病気が根本的に治る。それで浄霊というのである。その理を知らない医学は、霊を無視し、体のみを治そうとするのである。従つて、何程進歩したといつて

も、一時的治癒でしかない。何よりも事実をみればよく分かる如く、医療は根治が出来ない。一旦治つてもほとんど再発する。例えば盲腸炎の場合、患部を剔出するので、盲腸炎は起こらないとしても、盲腸に近接している腹膜炎や、腎臓病が起こりやすくなる。これは全く霊の曇りがそのまま残っているからで、再び濁血が作られ、位置を変えて集溜するからである。そうして濁血の変化であるが、濁血が不断の浄化によつて、一層濃度化するや、血粒は漸次白色化する。これが膿である。よく血膿といつて膿と血液とが混合しているものは変化の中途である、なお進むと全部膿化する。よく結核の喀痰に血液の混じっているものと、そうでないものがあるのは、右によつて分かるであろう。又医学における赤血球と白血球というのもそれであつて、それを食菌作用と医学はいうのである。以上によつて、霊体の関係は分かつたであろう。

新健康協会とは

病氣・貧困・争いのない世界、人類の幸福を最大の目標とし、心身の健康と霊性の向上を目指した「浄霊法」と「自然農法」を実施。また「美術・芸術」による魂の向上に努めています。本教の教祖「明主様」は昭和の初めより、幸福の原動力となる「浄霊」を確立され、特に病氣や色々な悩みで苦しむ多くの人を癒し、幸福へと導かれました。



体験記

浄霊による個人の感想

浄霊は幸福を生む方法です。明主様は、幸福の根源は魂にあり、魂が浄まると運命が向上し、病氣やあらゆる悩み苦しみが解消し幸せになることを、事実を以て示されております。次に紹介しています数々の喜びと感謝の体験記も、それらを広く物語っています。

長く続いたうつ病よくなる



福岡支部 堀明美(58)

「うつ病」と診断されたのは十三年前。私は病院に通い、一日五十錠もの薬を飲んでいました。毎日が暗い闇の中にいるようで、何もやる気が起きず、食事の支度をはじめ、顔を洗うこと、歯を磨くこと、ご飯を食べることがとても苦痛で、何も食べない日もありました。美しいモノをみても何の感動もなく、動悸、めまい、頭痛、吐き気などの症状で夜も眠れず、生きているのがつらいだけの日々でした。入退院を繰り返して治療を受けましたが、一向に良くなりませんでした。

そんな私の姿を見かねた母が、以前よりご縁をいただいていた新健康協会へ連れていってくれ、浄霊をいただきました。初めていただいた時は、ただ苦しくて、哀しくて、ずっと泣いているだけでした。それでも支部の先生は、「とにかく一週間毎日浄霊をいただいでみよう」と言うので、三日目から少しずつ気分も体調も落ち着き、楽になっていく自分に気づいたのです。「もしかしたら元気になるかもしれない」「元気になる」と「治りたい」の一心で浄霊をいただきました。体調が悪い時は、自宅まで来て浄霊をしてください、二回ずついただいたこともあり、本当に支部の先生の優しさに

救われました。半年後には、車を運転して支部に通えるようになり、夜も少し眠れるようになり、ご飯も美味しく感じるようになり、た。けれども、薬を完全にやめることはできず、少しずつ服用を減らしながら、浄霊をいただきました。

それから一年後、協会のイベントでダンスを踊ることになりました。「自分は無理だから」と思い、練習には参加していませんでしたが、「楽しいですよ。見学だけでもしてみませんか」とお誘いいただき、見学に行つたつもりが、一緒に練習することになりました。三カ月の間、週一、二回の練習に参加しました。イベント当日は、とても緊張しましたが、楽しく一杯踊ることができて、達成感で心が満たされていきました。笑顔で踊る私の姿を目にした母は、あまりの嬉しさに涙が溢れていました。体調はますますよくなり、夜は自然と眠たくなるようになりました。昼の薬も飲まなくても生活が出来るようになっていきました。

そして、浄霊をいただきはじめて六年が過ぎる頃、ついに薬を完全にやめることができました。朝目が覚めると、朝食をいただきます。お昼のお弁当も作れるようになりました。昼間はフルタイムで働いて、夜は夕食を作つて、眠たくなったら寝るといふ普通の生活が出来るようになりました。現在では、様々な職場で仕事をさせていただけようになり、今まであたりまえと思つて出来ていたことが本当はあたりまえではなく、お許しがあつて日常のことが出来ることを知り、心からありがたい生活をお許しいただいていると感じられるようになり、感謝の気持ちでいっぱいです。

明主様、誠に有難うございました。(福岡県福岡市)

精神的な病から救われ 心身共に健康に



大牟田支部 猿渡アサノ(80)

四十年前程までの私は、心身共に疲れ果て、精神的なことは特に深刻な状態でした。その頃は三カ月間、一日おきに全身麻酔を打ち、病院のベッドの上で、その麻酔が切れるまで眠り続けるという日々を過ごしていました。その他にもお灸や中国針等、ありとあらゆる治療をしていました。

病院で電気治療を受けている時、隣で同じ治療を受けていた方から、「浄霊という方法があつて、浄霊をいただいで元気になった人がいるよ」との話が聞きました。私はこのままどうなってしまうのだろうか、という不安な日々を過ごしていました。で、この話を聞いた時、「どうしてあなたは行かないの？私にその場所を教えてください」と言いました。

翌日、私は早速支部を訪ねることにしました。しかし、一日目はどうり着くことは出来ませんでした。そして二日目、もう一度支部を探しにいき、やつとの思いでたどり着くことが出来ました。これは私が本気で浄霊を求めているのか、ということを試されたのかも知れません。どんな治療をしても心身が良くなることはなく、様々な信仰を試してもダメだった私は、浄霊に縋りたい一心でした。すると驚いたことに、浄霊をいただき始めると、あれ程辛かった状態が徐々に良くなっていくので、本当に暗闇の中に光明を見出した気持ちで、喜びいっぱいでした。麻酔、

服薬、注射、手術、鍼灸、電気と、早く元気になりたくても何でもやってきましたが、結果はますます悪くなる一方でしたので、信じられないほどでした。私は嬉しくなり、間もなくして入会しました。おかげ様でその後は人様に浄霊を取次がせていただき、たくさんの奇跡も体験してきました。

例えば、朝食を食べ終えたお姑さんの様子がおかしく、家族で心配していたので、三十分くらい浄霊をさせていただきました。すると、食べていた物を吐き出すと同時に意識が戻ったのです。

また、心臓が苦しくなった息子が浄霊をいただくことで、翌日から仕事に行けるようになったり、長女がスポーツで鎖骨を折ったときも浄霊で良くしていただいたりしました。

たくさんの奇跡をいただき、本当に有難いです。

私は今から約五年前、急に右脇腹付近で激しい痛みが起つたので、病院に行つたのですが、医師から「胆のう結石で胆汁が濁っている」と言われ、手術を勧められました。支部へ電話をして明主様に御守護をお願いしました。その後、毎日浄霊をいただく濃いお水が出て徐々に楽になっていき、浄霊は心身共に浄めていたのだと聞いておりましたので、きつと体内がきれいになって元気になったのだと、明主様に心から感謝しました。また私は二年前、庭の瓦礫に足を取られ、後ろに転倒してしまいました。その時、とっさに左手だけで全身を支えてしまったので、左手首の骨が二本とも折れてしまいました。浄霊をいただいで数カ月で良くなりました。一昨年九月半ば過ぎ頃からは、左座骨、左側の腰、足が激しく痛み、眠れない時があつたり、

動けない時もありましたが、浄霊をいただいで二週間ほどで良くなりました。全ては心身を良くしていただくためのお掃除であり、体の具合が良くなつていくことで、それが浄化作用だということを体験しました。

当初は浄霊を待つている時なども横になつていないと体が大変つらかつたのですが、年齢を重ねた今の方が随分元気になり、横になることはあまりなく、座つていられるようになり、支部にはいつも長男のお嫁さんが送迎してくれるので、近所の会員さんと一緒に参加が出来て本当に有難いです。若い頃は辛いことの連続だったので、自分は四十歳まで生きられるだろうかと思つていましたが、明主様に御縁を頂き、八十歳になった今、以前よりずっと穏やかに何ごとにも感謝することになり幸福です。

明主様のおかげでこんなに長く命を継ぎ足していただいで本当に感謝しています。

明主様、誠に有難うございます。(福岡県大牟田市)

浄化作用ってどういうこと？

人間には体内の毒素を排除して健康を促進しようとする働きがあります。例えば、カゼの場合、蓄積してきた不純物や体外から入ってきた毒素を浄化するために熱や痛みが出ます。そしてその結果ハナやタンなどが体の中が掃除され、霊・体共に清浄化されます。その毒素排除の過程を浄化作用と言います。ですから浄化作用は、体の不調和を調和させる、大切な清掃作用でもあるのです。

心肺停止13分 脳障害を免れた奇跡



台北支部
孫 菁鴻 (48)

私は十八年前に友人に誘われ一度浄霊をいただきましたが、その時は何も特別な感じはなく続きませんでした。

二〇一三年に母が突然背中中の痛みを訴え医療にかかりましたが一年も経たずに他界してしまい、その時の悲しみからなかなか立ち直ることができず、その上、実は私も長年背中中の痛みを抱えていて毎週リハビリに通いながら治らず、婦人科の出血の問題も医者に診せても原因が見つからず大きな不安を抱えていました。

二〇一五年、友人の勧めもあり、半年間浄霊を試してみようと思い、毎週三回台北支部で浄霊をいただきました。ありがたいことに二、三ヵ月で婦人科の問題は解決し、長年の悩みだった背中中の痛みも和らいでいき、心の悲しみや不安はいつの間にか消えていきました。そして浄化作用や浄霊の原理について理解できるようになり翌年入会してからは、他の人に浄霊をしてあげることができ、人の役に立つことができることがうれしく、休みの日は支部で御用に楽しくお使いいただいております。

弟がいただいた「二つの奇跡」

昨年、四十一歳の弟が浄霊のお力で大変な奇跡をいただきましたので、お伝えします。

二月十三日夜七時頃、弟の奥さんから電話で弟が家で倒れて息もなく、心臓も止まっているとのこと、一

瞬頭が真っ白になりましたが、明主様に御願いをすることを思い出して、すぐに支部に御守護の御願いをさせていただきました。救急隊が着いて電気ショックを与えましたが何も反応がなく、すぐに病院に運ばれました。私は病院の救急救命室の外からずっと明主様に御願いを弟に向かって浄霊をしました。ありがたいことにすぐに二つの奇跡をいただきました。弟は命を取り留めました。医者は「心臓が十三分以上も止まっていたので脳障害が大きく、このまま意識が戻らない可能性もあり、万が一意識がもどっても四歳程度の知能になるかもしれない」と言いました。私は一心に明主様にお縋りするだけで他のことは考えず浄霊をしました。

翌日、すぐ明主様から二つの奇跡をいただきました。弟は意識が戻り、こちらが話すことを理解できるようでした。その後も面会が許される限り浄霊をしました。五日目にコロナウイルスが蔓延しているのとこので面会時間が制限されることを聞き、浄霊ができないことを残念に思いました。なんと七日目には普通病棟に移ることができ、続けて浄霊をすることができました。一週間前に起きたことがまるで夢だったかのように、意識も完全に戻り今までとかわらない弟の姿を見て、信じられない奇跡をいただいたことに感動しました。そしてその三日後には退院でき、弟と一緒に支部にお参りして明主様の絶大な御守護に感謝申し上げます。

今回弟の浄化を通して「私達と死との距離はこんなに近い」ことが分かりました。しかし、明主様の御守護で、絶大な救いの手で弟を死の直前から救って下さいました。私の感謝は本当に言葉で表せません。浄霊

にご縁をいただいたから、たくさんの奇跡を見せていただき、私の人生は変わりました。この素晴らしいお力でたくさんの方が救われますように、これまで以上にお手伝いさせて頂きたいと思っております。

明主様、誠に有難うございました。
(中華民国台湾省・台北市)

体が右に傾く… 原因不明の病気もよくなる



アメリカ
ロサンゼルス支部
ジェリー・
ブライアント (66)

私は二十年近く、週に二、三回支部に行き浄霊をいただいています。そのおかげで今まで特に大きな病気もなく毎日元気に過ごしていました。ところが二〇一八年十二月の暮れ、私は今までに経験したことのない症状に見舞われました。

夜トイレに行こうと思えばベッドから出た時に体が右に傾き倒れ込みました。その後まっすぐに立とうとしても、どうしても体が傾き、支えなしでは立つこともできませんでした。

具合が悪いとか、めまいがするとかではなく、ただ体が無意識のうちに右側に傾いてしまい、気がついた時には立て直しがきかないところまで傾き、そのまま倒れてしまうのでした。その時一緒にいた友人が、ただ事ではないと心配し私を病院へ連れて行きました。

病院に三泊し、あらゆる検査をしました。医師は原因がわからないと言いました。血圧もコレステロールも正常、脳にも骨にも異常なし…

医者も首をかしげるばかりでした。それなのにステロイドや色々な薬を投与しようとするので「ちよつと待つて、原因も分からないのになぜステロイドのような強い薬を患者に与えることができるんですか？私には原因が分からないうちはどんな薬も摂ることはできません。原因が分からないのならここにいても仕方ないので家に帰してください」と言って帰宅しました。

座るときも体を前かがみにして座れば問題ないのですが、まっすぐに体を起こすと段々と右に傾き倒れてしまうのでした。すぐに支部に電話をし、家に来てもらって浄霊をいただきました。その後も支部の人が毎日来て下さり、おかげ様で五日後には普通の生活ができるようになりました。

最初は万が一の為に杖を使って歩いていましたが、五日目にはそれも必要なくなりました。原因が分からないと言われた時は心配になりましたが、支部の方が「弁護士という職業柄、頭を良く使うので時々浄化作用が必要なんです。しっかりと浄霊をいただいで、心身共に浄まりましょう」と言われ、安心することができました。この経験をを通して改めて浄霊の素晴らしさに感謝の念が湧きました。

浄霊を知らない方には心身共に浄まれば病気も楽になるなんていう話は意味が分からないかもしれませんが、もし心や体に何か悩みがある方はぜひ近くの支部を訪ねて浄霊を試してみたいと思います。理屈ではなく、体験することで浄霊の力が分かると思います。

明主様、誠に有難うございました。
(アメリカ・カリフォルニア州)

感謝の心

現在、契約社員として働いているYさん。

以前働いていた会社では、仕事に困ることはなかったものの、人間関係で仕事をするのにストレスを感じていました。毎日悩みも増え、翌日の会社のことを思うと鬱になりそうと話していました。その上頭痛や肩凝りも激しくなり、「これは支部に行つて浄霊をいただいられない…」と、会社帰りに支部へ行くようになりました。

鼻血が出ることもありましたが短期間で治まり、会社での出来事を支部で話していると体調だけでなく気持ちも少しずつ前向きになっていったそうです。すると人事異動等で会社の状態も大きく変わり、契約期限まで無事仕事を続けられました。さらに嬉しいことに、すぐに次の仕事も見つかりました。そこはYさんにとつてとても条件がよく働きやすい場所でした。またこの時は世の中がコロナウイルスで大変になる直前でしたので、全てが都合良く推移しました。

Yさんは「毎日明主様にお願ひし、浄霊をいただいたことで心身共に楽にさせていただき、その新しい仕事にも恵まれ、本当に有難い事です。今は楽しく仕事もできています！」と心から感謝されています。

浄霊入門⑦

(浄霊を体験したフランス人のつぶやき)

浄霊は比較できないものである。

浄霊は自然治癒をするエネルギーであり、霊的に目覚めるためのモノでもある。つまり、幸福に達するための方法であるが、まだまだ知られていない方法である。

今回は「浄霊をいただく」ことについて話したい。

そう！うれしいことに、明主様のおかげでもりや毒素を心地よくとることができる！

そう、浄霊をいただくことは良いことだ！

やかたは簡単。

浄霊をしてくれる人の前に座り（もちろん新健康協会の会員でなくてはならない）20〜30分間、その人が自分の手のひらを我々の体のあらゆる部分にむけていく。

主に頭、首、肩（ここには毒素が多く溜まるらしい）。

そして腎臓（血液をきれいにしてくれる臓器だから）。

その動作は繊細な光を放つ。まだ最近の機械では測りきれない光だが、実際に存在する。

なぜならセンシティブな人も、そうでない人も、光を感じる事ができるからだ。

この光には、特別な呼び名はついていないが、よく神秘的な光とか、神様の光とか：ただ単に「浄霊の光」と呼んでいる。

なぜ浄霊はこんなにも効果的なのだろうか？

それは直接神様から送られてきているからである。

人間の力ではない。神様の力である。

だから催眠術師や人間の力で火素を取り除く人とは訳が違う。

決して、自分の力は発揮しないので、疲れも感じない。

浄霊は気持ちのよいものだし、ただ座っているだけでいいから、一度体験してみた方がよい。



明主様は、「美」による「心の浄化」を説かれました。世界の人々が美を築く時、それは文化の進歩にも貢献する事となり人間性の向上にもつながり、天国世界が出現することにもなると教示されました。

歌川広重作

『名所江戸百景』之内

《両ごく回向院元柳橋》

この作品は歌川広重『名所江戸百景』の《両ごく回向院元柳橋》です。遙かに富士を望み、目の前を流れているのは隅田川。中央やや右寄りに見える橋がタイトルにある「元柳橋」で、薬研堀が隅田川に流れ込む河口にかかっていたものだそうです。橋のたもとには名前の由来になったといわれる立派な柳もあります。では「回向院」はどこにあるのかというと、左側天地いっぱいにつと建っている太鼓の櫓がヒント。これは相撲櫓なのです。

明暦の大火で亡くなった人々を供養するために建立された回向院ですが、『名所江戸百景』が発表された安政年間にはすっかり勧進相撲の定打ち場所として親しまれていました。回向院では天明年間から相撲が行われており、天保四年（一八三三）に定番化されたので、回向院と相撲との関わりはこの絵が描かれた頃すでに七〇年以上、定番化されてからでも二〇年以上ということになります。春秋の二回、境内に仮設された相撲小屋で、晴天が続けば一〇日間かけて行われ、棧敷席と土間席を合わせる一日に約一万人もの人々が



見物していたそうです。

櫓は回向院表門の右側に組まれ、櫓の上で太鼓が打ち鳴らされるのですが、この櫓の存在そのものが、神仏を勧請し、江戸の町に興行を知らせる、相撲開催の象徴であったといえます。本作は春の部に割り当てられているので、時は正月。早朝の寄せ太鼓からその日を終える跳ね太鼓まで、いくつかの場面で夕方まで断続的に太鼓の音がこから響いていたわけです。櫓が建ったらきつと江戸の人々は血を騒がせていたに違いありません。

もともと、名所というのは和歌に詠まれた地、歌枕とされた地のことでしたが、江戸の頃にはその伝統を下敷きに、花見の地や寺社などの行楽地、富士山の見える場所、関所、商店の並ぶ活気ある街など、現実に人気のあるスポットが「名所」として絵に描かれるようになっていました。浮世絵はそういう意味で、それ

までになかったリアリティを伝えていたのです。

本作は回向院を描くというよりも、回向院から元柳橋を眺めた図、ということになります。実際の場所、そして季節を表し、とはいえ間接的にそれとわかる描き方で心踊る時を投影した、広重の粋を感じます。

解説 松田愛子

清明会館

「生を写し、真に迫る」後期展

期間：1月7日（木）〜5月16日（日）

※清明会館お問い合わせ ☎(092) 661-1535